S1M NEWS

April 2018 No.16

SCHOLARONE MANUSCRIPTS™

■ 特集レポート① 国内の審査状況『判定結果と修正回数及び審査期間』の集計結果
■ 特集レポート② 国内の『S1M 運用状況』と『投稿状況』の推移
■ 2017年 運用開始ジャーナル

S1M NEWS 特集レポート①

国内の審査状況『判定結果と修正回数及び審査期間』の集計結果

ジャーナル総合

図1 修正回数ごとの「採用・修正・不採用」の割合、審査にかかる日数、修正論文の提出率

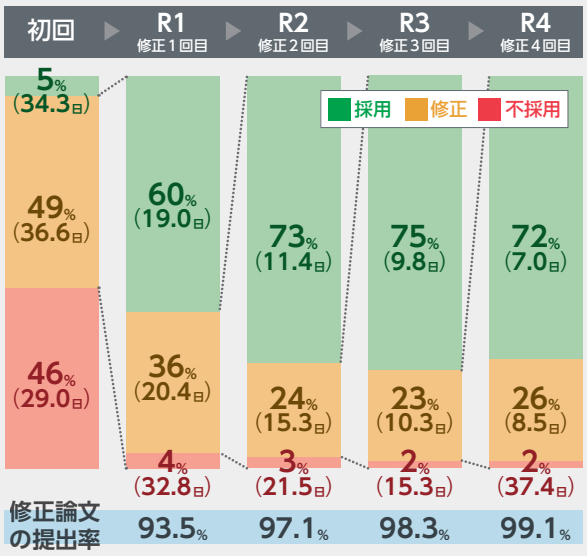
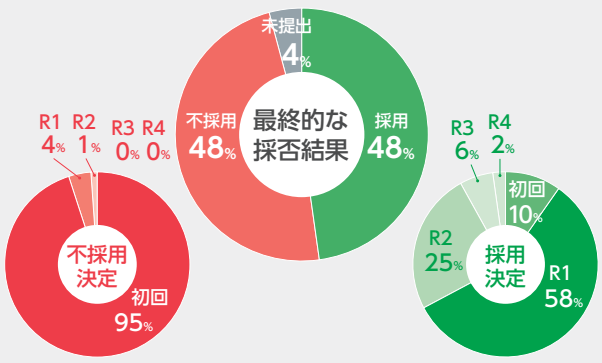


図2 最終的な「採用・不採用」の割合と採用・不採用は何回目の修正で決定しているか？



和文誌

図1 修正回数ごとの「採用・修正・不採用」の割合、審査にかかる日数、修正論文の提出率

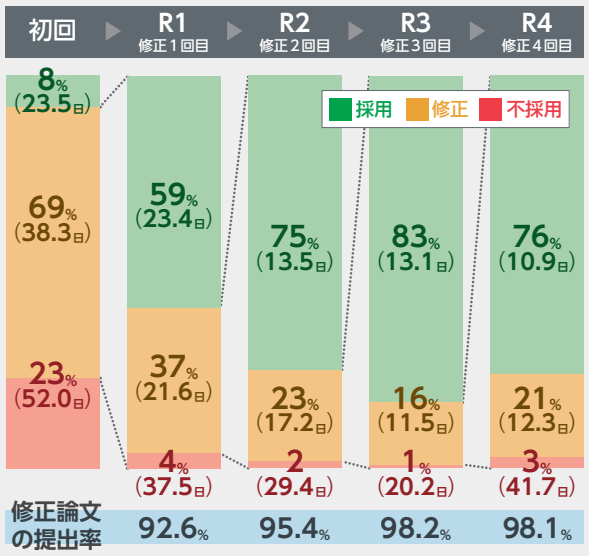
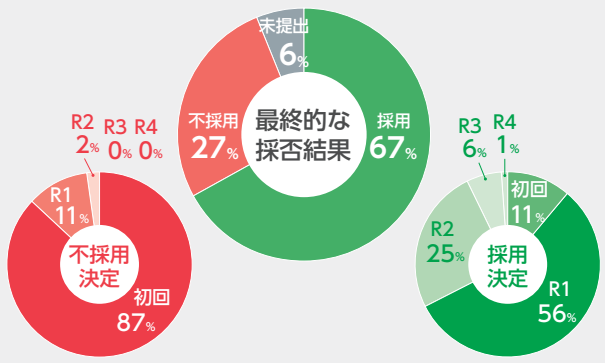


図2 最終的な「採用・不採用」の割合と採用・不採用は何回目の修正で決定しているか？



英文誌

図1 修正回数ごとの「採用・修正・不採用」の割合、審査にかかる日数、修正論文の提出率

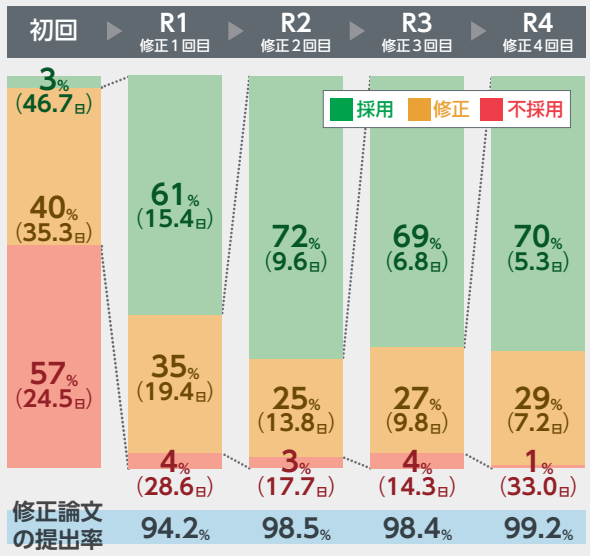
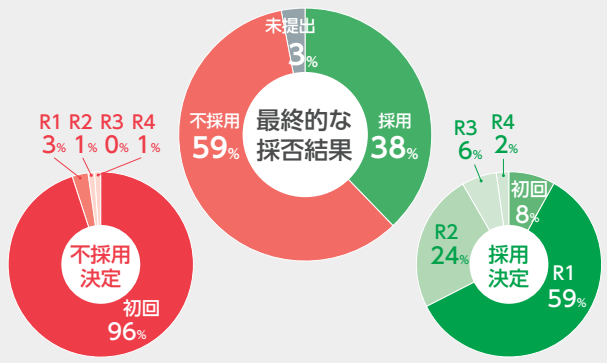


図2 最終的な「採用・不採用」の割合と採用・不採用は何回目の修正で決定しているか？



※R1, R2, …とは、Revision Numberのことで、修正判定を受けて再提出した回数を意味します　例）R1→ 1度修正判定を受けて再提出されたもの、R2→ 2度目の修正判定を受けて再提出されたもの

S1M NEWS No.13においてご好評頂いた『S1M NEWS特集レポート』の第2弾です。前回は査読にまつわる集計を行いましたが、今回は“判定結果”に関連したデータをご紹介します。

調査には『初回論文の投稿と最終判定が2017年中に行われている』論文を対象としました。採用・不採用が確定した論文の他、調査時点で修正期限日を60日以上超過している論文は修正投稿を辞退したものと見なし、調査対象に含めています。杏林舎経由でS1Mをご利用いただいているジャーナルのうち162誌から32,796編（和文誌：12,237、英文誌：20,559編）の審査情報を集計しました。

また判定種別はジャーナルによって表記や段階が異なるため、採用、修正、不採用の3段階に統一しました。

修正回数ごとの「採用・修正・不採用」の割合

修正回数ごとに各種判定がどのくらいの割合で行われているのかを集計しました（各図1）。ジャーナル総合は初回では約半数ずつが修正もしくは不採用となり、採用はわずか5%であることがわかります。これを和文誌、英文誌に分けてみると和文誌では採用：8%、修正：69%、不採用23%となり、対して英文誌では採用：3%、修正：40%、不採用：57%と大きな違いが見られます。一方、R1以降ではそれほど大きな違いは見受けられませんが、やや英文誌のほうが修正や不採用となる傾向があるようです。

またどの集計結果においても2回目以降に不採用となる割合は5%以下となっています。

審査にかかる日数（平均）

論文の投稿日から判定が行われるまでの期間を審査日数として、修正回数ごとの平均日数を求めました（各図1カッコ内数字）。不採用以外は、全体的に修正回数が増えるにつれて審査期間が短くなります。初回審査にかかる日数を和文誌と英文誌で比べると、和文誌では採用：23.5日、不採用：52.0日となるのに対して英文誌では採用：46.7日、不採用：24.5日とほぼ逆転しています。

修正論文の提出率

修正判定を受けた論文が再提出される割合を調査しました（各図1下段）。修正論文を提出する割合は最も低いR1の提出率でも93.5%と高く、修正を重ねるごとに高くなり、この傾向は和英どちらにも共通しています。

最終的な「採用・不採用」の割合

最終的な判定が採用、不採用、もしくは期日を60日以上超過した修正論文の割合（各図2中央円グラフ）を見ると、ジャーナル総合では48%が採用、不採用が48%、未提出が4%でした。和文誌と英文誌には大きな違いが見られ、和文誌では採用：67%、不採用：27%であるのに対して、英文誌では38%が採用、59%が不採用となっていることがわかります。

採用・不採用が決定するまでの修正回数の割合

最後に、採用・不採用が決定するまでの修正回数の割合を調べました（各図2左右円グラフ）。ジャーナル総合のグラフを見ると全採用論文の58%がR1、25%がR2で採用が決定しています。対して不採用論文はその大半が初回に集中しています。また殆どの投稿論文がR2までに採否が決定していることがわかります。

採否の合計に対する修正回数の割合を見ると、和文誌では初回よりもR1で採否が決まることが多いのですが、英文誌では約60%が初回審査で採否が決定していました。これには初回審査時の修正/不採用判定の比率（各図1）が大きく影響していると考えられます。

まとめ

今回の集計では、初回審査時に採用となる論文は5%（各図1：ジャーナル総合）しかないこと、不採用となる論文の9割以上が初回審査で不採用となっていること（各図2：ジャーナル総合）など初回審査においてハッキリと明暗が分かれるとの結果が得られました。

また弊社には「修正期日を過ぎてしまった」というお問い合わせが少なくないのですが、修正論文の提出率（各図1下段）は一番低い値でも92%であり予想よりも高いことがわかりました。

和文誌と英文誌を比較すると、多くの集計においてその性質の違いが見られました。言語の違いだけではなく依頼論文の多寡や投稿数の違いなども大きく影響していると考えられますが、採用に積極的な和文誌と慎重な英文誌という大まかな傾向があるように思えます。

今回は“判定結果”に関連したデータをご紹介しましたが、弊社ScholarOneサポートセンターでは査読実績や採否率など様々なレポートの作成代行サービスを行っています。貴誌の状況を確認するうえで詳細な情報が欲しい場合は是非お声掛けください。

S1M NEWS
特集レポート②

国内の『S1M運用状況』と『投稿状況』の推移

図2、図3の調査は2013年1月1日までに運用を開始し、現在も継続してご利用いただいている93ジャーナルを対象として投稿数の推移を調べました。

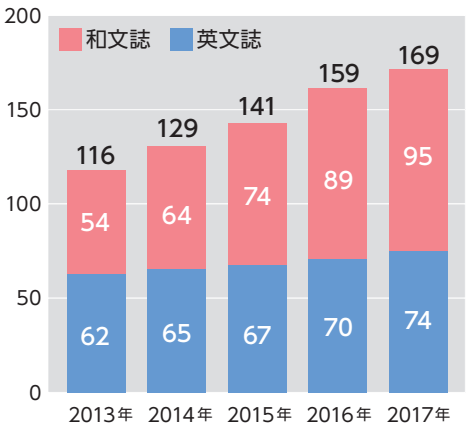
このコーナーでは過去5年間での国内のS1M運用サイト数と投稿数の推移についてご紹介します。

2013年～2017年における年末時点の運用中のサイト数をまとめました。

総数の推移を見ると2013年の116サイトから毎年10サイト以上が新規に運用を開始し、2017年には169サイトが運用となりました。116サイトから169サイトですので、運用サイト数は過去5年間で約45.7%増えていることがわかりました。

サイト数の変化を和文誌・英文誌ごとに見てみると英文誌にくらべ和文誌のほうがサイト数を大きく伸ばしています。2013年は英文誌が62サイト、和文誌が54サイトと英文誌のほうが多かったのですが、2014年にはほぼ同数となり、以降は和文誌のサイト数が多くなっています。

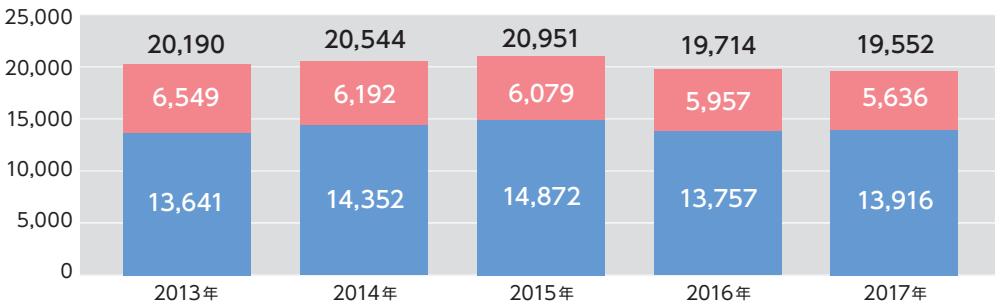
図1 S1M 運用サイト数の推移



投稿総数の推移

投稿総数の推移を見ると2015年までは右肩上がりに伸びていますが、2016年に大きく減じています（図2）。2015年、2016年の投稿数を見ると和文誌はそれほど大きく減じていませんが、英文誌では1,000投稿以上減っています。さらに国別投稿数を見てみると国内からの投稿数には大きな違いが見られませんが、海外からの投稿が軒並み減少していることがわかります。これには様々な要因が考えられますが、2016年前後に複数の大型英文ジャーナルが投稿料や掲載料の徴収開始、値上げを行ったことが大きく影響していると考えられます。特に論文誌は会員サービスの一環であるとの考えから会員/非会員で価格差を設けているジャーナルもあり、それが海外からの投稿数減少に影響していると考えられます。

図2 投稿数の推移



日本からの投稿数の推移

和文誌の推移を見ると2013年から一貫して投稿数が減少しています。一方で国内英文誌への投稿数の推移を見ると2013年～2017年の間ではほぼ横ばいです。様々な調査において日本の学術論文数の減少が言われて久しいですが、今回の調査結果でも同様の傾向が見られました。

国別投稿数 イランの躍進

英文誌への投稿数の推移を投稿者の所属国ごとに集計した結果、過去5年間のTOP3はすべて日本、中国、韓国でした。この3カ国からの投稿が全体の7割を占めています。またトルコ、インドからの投稿も多くみられます。2016年を境に諸外国からの投稿が減少傾向にある一方で、急速に投稿数を伸ばしているのはイランです。2013年は297投稿で7位でしたが、他国からの投稿が大きく減じた2016年にも投稿数を伸ばし、2017年には425投稿で韓国に次ぐ4位となりました。イランの科学技術は世界トップクラスの速度で成長しているとも言われており、今回の調査結果にはその勢いが表れているといえそうです。

図3 英文誌への国別投稿数ランキング トップ 10

国旗 国名 投稿数（割合）

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
1位	日本 6,138 (45.0%)	日本 6,122 (42.7%)	日本 6,242 (42.0%)	日本 6,208 (45.1%)	日本 6,546 (47.0%)
2位	中国 2,241 (16.4%)	中国 2,635 (18.4%)	中国 2,912 (19.6%)	中国 2,620 (19.0%)	中国 2,781 (20.0%)
3位	韓国 1,231 (9.0%)	韓国 1,284 (8.9%)	韓国 1,261 (8.5%)	韓国 1,079 (7.8%)	韓国 965 (6.9%)
4位	トルコ 608 (4.5%)	トルコ 708 (4.9%)	トルコ 698 (4.7%)	トルコ 532 (3.9%)	イラン 425 (3.1%)
5位	インド 428 (3.1%)	インド 417 (2.9%)	インド 419 (2.8%)	イラン 414 (3.0%)	トルコ 382 (2.7%)
6位	台湾 356 (2.6%)	台湾 397 (2.8%)	イラン 380 (2.6%)	インド 380 (2.8%)	インド 353 (2.5%)
7位	イラン 297 (2.2%)	イラン 322 (2.2%)	台湾 359 (2.4%)	台湾 212 (1.5%)	台湾 230 (1.7%)
8位	アメリカ 232 (1.7%)	アメリカ 197 (1.4%)	アメリカ 198 (1.3%)	アメリカ 199 (1.4%)	アメリカ 173 (1.2%)
9位	イタリア 168 (1.2%)	ブラジル 179 (1.2%)	イタリア 194 (1.3%)	ブラジル 149 (1.1%)	タイ 136 (1.0%)
10位	ブラジル 144 (1.1%)	イタリア 151 (1.1%)	ブラジル 165 (1.1%)	イタリア タイ 134 (1.0%)	ブラジル 124 (0.9%)

SCHOLARONE MANUSCRIPTS 2017

2017年は、10ジャーナルでS1Mの運用が開始されました！

- 日本助産学会誌（日本助産学会）
- 日本プライマリ・ケア連合学会誌（日本プライマリ・ケア連合学会）
- 日本 IVF 学会雑誌（日本 IVF 学会）
- Acoustical Science and Technology（日本音響学会）
- 東邦医学会雑誌（東邦大学医学会）
- Toho Journal of Medicine（東邦大学医学会）
- 電気設備学会論文誌（電気設備学会）
- 結核（日本結核病学会）
- Blood Cell Therapy / The Official Journal of APBMT (Asia-Pacific Blood and Marrow Transplantation Group)
- 日本老年医学会雑誌（日本老年医学会）

編集後記

今号では、国内で運用されているS1Mサイトからデータを集計し、判定結果の分析やサイト数、投稿数の推移についてご紹介しました。どの集計結果も、和文誌・英文誌にそれぞれの特徴が見られ、また修正論文の提出率やイランからの投稿数増加など、いくつかの情報が新たに得られました。皆様もそれぞれの異なった視点でご覧いただき、今回のデータで新たな発見が得られましたら幸いです。

海外イベントとして、今年も5月に開発元のClarivate Analytics社主催によるS1M User Conferenceが開催され、ほぼ同じ時期にCouncil of Science Editorsの年次大会も開催されます。どちらも弊社スタッフが参加する予定ですので、これらのイベントで得た情報を次号のS1M NEWSで紹介させていただきます。次号のS1M NEWSを楽しみにお待ちください。

S1M NEWS
2018年4月13日発行　第16号

発行　株式会社 杏林舎
〒114-0024 東京都北区西ヶ原3-46-10
TEL. 03-3910-4311 FAX.03-3949-0230
URL http://www.kyorin.co.jp
編集・制作・デザイン　株式会社 杏林舎
E-mail　s1mnl@kyorin.co.jp

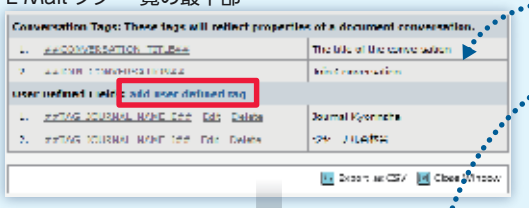
©株式会社 杏林舎　本誌掲載の記事・写真・イラストレーション等の無断転載を禁じます。

次号 2018年 8月発行予定

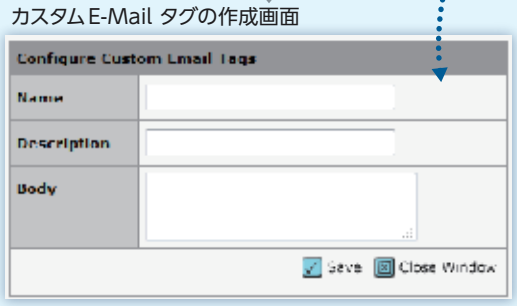
カスタムE-Mailタグ

カスタムE-Mailタグは事務局権限を使って次の手順で作成できます。

E-Mail タグ 一覧の最下部



カスタムE-Mail タグの作成画面



❶ どのE-Mailテンプレートでも構いませんので編集画面を開きます。

❷ 編集画面にある“E-Mailタグの表示（View E-Mail Tags）”をクリックします。

❸ E-Mailタグ一覧の最下部にある”ユーザー定義タグの追加（add user defined tag）”をクリックします。

❹ 作成したいE-Mailタグの情報を入力します。

- **Name（名前）**
  E-Mailタグ本体に使用しますので、分かりやすいものを設定します。例：ADMIN_SIGNATURE
- **Description（説明）**
  E-Mailタグの説明文です。
  E-Mailタグ一覧の右側に表示されます。
- **Body（本文）**
  E-Mailタグで引用したい文章を入力します。

作成済みのカスタムE-Mailタグを編集するにはタグ一覧の“Edit”をクリックして行います。
所在地や担当者の変更に備えて、事務局の署名をカスタムE-Mailタグで作成しておくととても便利です

こんにちは！杏林舎の山田です。
今回のテーマは「カスタムE-Mailタグ」です。これを活用すると複数のE-Mailテンプレートに同じ文章を挿入できますし、一括で書き換えることもできます。